

## 令和6年度 第1回沼津市総合教育会議 議事録

- 開催日時 令和6年11月15日（金曜日）14時30分～16時38分
- 開催場所 沼津市水道部庁舎3階会議室
- 出席者 市長 頼重 秀一  
教育長 奥村 篤  
教育委員 佐藤 清子  
教育委員 土屋 葉子  
教育委員 川口 浩史  
教育委員 重光 純

### ○ 協議・調整事項

- (1) リアルとデジタルを組み合わせた学習機会の確保や居場所づくりについて
- (2) 沼津市教育大綱について

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 市長挨拶

本日は、令和6年度の第1回沼津市総合教育会議に、教育長をはじめ教育委員の皆様方には御多忙の中にも関わらず、御出席いただき心より厚く御礼申し上げます。また、傍聴席の皆様方におかれましても御出席賜ったこと、心より厚く御礼申し上げます。

この総合教育会議は、市長と教育委員の皆様方で協議・調整をはかり、当市の様々な教育行政に関わる課題を共有し、連携して取り組んでいくものである。昨年、当市は市制施行100周年を迎え、今年には101年目であり、新しい100年に向かってまちづくりが進められている。まちづくりを進める上で、そこで活躍する人材をしっかりと育てていくことはとても大切である。昨今の非常に目まぐるしく変化する社会情勢の中で、ここ数年来、今までとは違った様々な取り組みの仕方が模索され、また価値観も変化してきている。このような中でも、人材育成のために教育環境の整備をはじめとした子供たちへの様々な施策を行っていくことが極めて重要である。

本日の会議では忌憚のない御意見を賜り、当市の教育のさらなる発展に向け、よりよき総合教育会議になるようお願い申し上げます。

#### 3 教育長挨拶

先程まで、富士市で開催されていた静岡県校長会の研究大会に出席していたが、その中で、校長先生方が現在の子供たちを取り巻く環境や、山積する教育課題を踏まえ、未来を担う子供たちがどんな力をつけていったらよいのか、一つ一つの課題に向けて、実例を発表していた。教育においても変化が非常に激しく、ChatGPTなど生成AIが当

たり前のように今後は利用されていくことが予測される。そうしたときに、教育に求められることは何かということ、先生方と共に我々も一緒に学び続けていかなくてはいけない。

本日の会議では、一つ目の議題として、学校での利用率が定着してきた ICT 機器の本市での利用について、生徒同士が直接学校で学び合う「リアル」な面と、ICT 機器を利用した「デジタル」の面の学びの機会や居場所づくりについて、意見交換させていただきたい。また、実際に児童生徒たちが学校で使用している Chromebook を使い、これからの時代を担う子供たちに想いをはせながら、意見交換ができればと考えている。

もう一つの議題である次年度に終期を迎える「教育大綱」について、新たな教育大綱の策定に向け、頼重市長と私ども教育委員会で、今後予想される教育現場の課題や、現状の沼津市の教育について意見を重ねていきたい。現行の「沼津市教育大綱」では、目的として「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」を掲げ、「人間力を磨く教育」と「地域総がかりで取り組む教育」を推進してきた。それぞれの視点から活発に意見交換をし、「貴き志を持つ人づくり」を目指す本市の教育について協議していきたい。

#### (出席者紹介)

#### 4 協議事項 1

リアルとデジタルを組み合わせた学習機会の確保や居場所づくりについて  
会議の進行は、沼津市総合教育会議設置要綱に基づき、座長である市長が行う。

(市長)

本日の議題の一つ目、「リアルとデジタルを組み合わせた学習機会の確保や居場所づくりについて」意見交換を行いたい。

意見交換を行う前に、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

リアルとデジタルを組み合わせた学習機会の確保や居場所づくりについて、スライドを用いて説明。スライド説明後、市長、教育長、教育委員へ Chromebook がそれぞれ配付され、小中学校で使用されている AI ドリルを体験する。

(市長)

教育委員の皆様方から AI ドリルを体験した御感想等をお願いします。

(委員)

AI ドリルは、ゲームみたいな感じで簡単に取り組み、クイズのようにすぐに答えが出るため、基礎的な学習についてはよいと思った。また、先程のスライド説明でもあったように、Chromebook を利用して遠隔地にある離れた学校をつないで生徒同士が交流したり、昔だったら考えられないような学習活動での利用が進んでいる。子供が少なく

なったこともあり、他校との交流の機会を得られるのはよいと思った。Chromebook の導入は、コロナ禍の学校でのリアルな活動が難しいときに、学習の機会を確保するために、遠隔でも授業ができるように導入されたと認識している。AIドリルなど教材自体も、すぐに答えが出るのでゲーム感覚で自学をするきっかけにはなると感じる。

ただ、先程も申し上げたように、試行錯誤して学習をしていくことも必要である。デジタルはそれはそれでよいが、アナログな面も必要である。漢字なども、子供がパソコンやタブレットなどの画面に手で書くものがあるが、鉛筆を使って書いた方が何となく覚えがいいのかと思った。インターネットがない時代に勉強した人間としての感覚であるが、今の子供たちはすでにインターネットが普及している時代に生まれているため、そういった感覚はないのかもしれない。

不登校の子供が授業の遅れが出ないように、授業を受けられる機会を確保するという点についても ICT 機器は有用だと思う。しかし、それがあからとって、不登校が進んではいけないため、そこが結構難しい。今、不登校の児童生徒が増加し、原因もいじめのほか、原因がよくわからず何となく無気力になり、不登校になっている子供もいる。とりあえず Web で授業を受けられるからと、何となく易きに流れてしまって子供が学校に行かなくなってしまう可能性もあるので、そこは非常に難しい気がする。不登校の子供を助けるために出てきたものが、かえって不登校の子供を増やす原因になってしまうという危惧があり、それが今後の課題であると思う。

私も最近、裁判は Web で行われることが多く、東京や静岡で行われる裁判に裁判官と相手方の代理人と直接会うことなく、Web 会議で裁判を進めることが多い。それが普通の裁判とどう違うのかというと、何となくリアルのときに感じられた空気感のようなものを感じなくなる。表情だけではない、何となくのその場の空気感で伝わるものがある。やはり、リアルでしか得られない人間の非言語的なコミュニケーションというのは、リアルでないと難しい部分もある。デジタルは便利で使い勝手もよく、非常に有用な部分もあるかもしれないが、それだけではなく、リアルでなければ学べないものや、リアルの方がよいというものもある。まだ、デジタルの活用は始まったばかりなので、今後、経験を通じてより良いものを見つけていっていただきたい。

#### (委員)

Chromebook を使わせてもらい、とても楽しかった。子供たちが Chromebook を上手に活用し、基礎的な学習が身につけばよいと思った。Chromebook が導入された当時、孫が学校から帰ってきたときにちょうど居合わせ、ランドセルから Chromebook を出して何かやっていたが、こんな小さい時からビジネスマンみたいになったと、見ていて微笑ましかったのを覚えている。

先程、委員もおっしゃっていたが、学校で学ぶということは、単に学力を身につけるだけでなく、友人や先生方との対人関係や、集団で協調して何かを行うといった社会性を身につけるという意味で、とても重要だと思う。小学校、中学校だからこそ育まれる社会性というのもあり、それが将来、社会に出たときに大切になる。

今回の協議事項のデジタルの面について、Chromebook を使った様々な取り組みを見たが、子供たちの個別最適な学びや協働的な学びに上手に使っていただきたい。対人関

係も必要で、デジタルで学ぶことも必要である。両方をバランスよく使い、子供たちの能力の向上に活用できるとよいと思う。

不登校の子供について、不登校の原因はいろいろあると思うが、御家族が心を痛めているのはわかるので、学校としては家庭との緊密な連携をとっていただき、少しでも子供たちが学校に出て来られるような、また、学校には来られるけれども、自分の教室には入れないような児童生徒たちには、自分の教室以外のところに登校して、Chromebook を使って遠隔的な授業を行い、学習の遅れが出ないような居場所をつくっていただきたい。学期が変わる、学年が変わるなど、良いきっかけができたときに、教室に戻れるような支援をしていただけるとありがたいと思っている。家庭との連携はとても大事である。

(委員)

Chromebook が学校で配布されたとき、私の子供たちは Chromebook が自分のものになると、実際は借りただけであるが、自分専用のパソコンをもらう感じでとても喜んでいました。それが、あっという間に文房具になったという印象を受けている。先程 AI ドリルをやらせていただき、説明にもあったように自分の ID でやっていくと、自分の不得意なところや得意なところがあるようになっており、機能としてはすごいと思う。

一方で先程、委員もおっしゃっていたが、AI ドリルで出てくるのは答えのみである。なぜ、その解答になるのか、探究心を持ってもらえるような工夫などがあると、もっとよいと思った。しかし、Chromebook が導入されてまだ3年であるので、これから利用の試行錯誤が始まって、ICT 機器のメリットを最大限生かすような授業や、質の向上が研究として進んでいくと思っているので期待したい。

スライドの中の動画で、大岡中学校の生徒と戸田小中一貫学校の生徒が Chromebook を使って遠隔で交流をしている場面を見た。今後、少子化が進んでいく中で、学校区を超えた子供たちの交流、同級生だけではなく先輩後輩といった様々な人と知り合う機会やそういう場所が求められてくると思っている。その現状を今、見させていただいたという感覚があり、生徒たちがとても楽しそうにやっていって、進んでいると思った。

ただ一方で、先程から委員の皆さんがおっしゃっているように、インターネット上の、画面越しのつながりだけでは、心を通じ合わせるような深い人間関係を形成したり、体験していくことは、なかなか難しいと思っている。直接会って肌で感じるものを、この先持つことができるのが課題になってくる。私は福祉の仕事をしていて、時々中学校や小学校へ行って福祉の話をするところがあるが、いくら写真を見せたり話をしても、体験学習に来てもらい、利用者さんやお年寄りの方、障がいがある方と関わってもらった方が、よっぽど学びが深い。満足度も全然違う。アンケートをとっても違う。やはり人間は、お互い学び合ったり、触れ合ったり支え合ったりすることが重要だと思う。そういったことを同時進行でやっていくことが重要だと、改めて思った。

(委員)

冒頭で Chromebook を使うのを楽しみにしているとお話したが、ログインが上手くできず、最初の画面のところ矢印を持って行くことはできたが、そこから先、どうし

ていいのかわからなかった。仕事でもパソコンを使っているが、マウス派なので画面を触るのはスマホでやるぐらいしかない。それを振り返ると、1年生でChromebook をもらったときは、こうなのではということを感じた。

いくつか学校に視察に行かせていただいたときに、Chromebook を使用した授業で一番驚いたのは習字の授業で、私の頃であれば先生が「ここはとめて、ここで跳ねる」という指導を、先生の周りに生徒が集まり、先生の手元を見ろという指導だった。それが視察した授業では、先生がお手本を書いているのを画面で映し、生徒たちは自分の席にいて画面上で教師の筆の運びを見ている。こういう使い方があるのかと思った。

体育の授業では、体育館でポートボールの試合が終わったら、みんな集まりChromebook に何か書き込んでいた。今やった試合の結果や評価、反省を生徒たちが打ち込み、それを他の生徒も見ることができ、体育でもChromebook が使われているのかというのが感想である。

今の体験からすると、Chromebook の操作がわからず落ちこぼれる児童もいるのではないかと思った。つい先日の授業参観では、一番後ろの席にいる児童で、画面を行ったり来たりしているだけで、多分この生徒はわからないまま授業が終わるのだろうなという感想を持った。ICT 機器は自分も便利に活用させていただいているが、やはり対面でやる、やらなくてはいけないことがあるのだろうと思った。

#### (教育長)

毎年、市内の小中学校を訪問しているが、どの学校でもChromebook を児童生徒が当たり前前に活用している姿を拝見している。キーボードを打つスピードなども速く、画面を見ながらタイピングをしている子供もいる。一方で、ノートに鉛筆を使って板書するときの鉛筆の持ち方や、書いているときに斜めに座るなど姿勢が気になる。自分の小学生時代は、書く姿勢であったり、鉛筆の持ち方を意識させられた。

今は、パソコンで綺麗な活字に変換され、漢字を忘れてもパソコンに入力すれば思い出せるが、書いて文字を覚えることも、人間の動作の中でとても大事なものだと思っている。ここはパソコンで、ここは書いてというように、先程から会議で出ているバランスみたいなものを、先生方も子供たちも身につけていくことが、情報活用能力につながっていくと思う。

昔から漢字ドリルや計算ドリルはあったが、書いて覚えて、漢字の書き順であったり、計算方法を覚えた。先程のAIドリルで私は、円柱の体積の求め方をやったが、半径×半径×3.14×高さといった公式を、自分は小学校の時に大きな画用紙などに書いて、教室や自分の部屋に貼っていたことを思い出した。パソコン上では体積を求める計算を理解する上で、やはり紙などに書いて自分で計算するというようなことをやらないと定着しないと思う。

また、AIドリルは、小学校から中学校まで同じメーカーのものを活用しているので、データが蓄積されていき、ポートフォリオ的に児童生徒が、苦手な分野や得意なところを効率的に知ることができる。各教科でもデータを分析できるため、先生方がそれを教科指導に活用することができ、中学生ぐらいになれば子供自身も活用できるようになっていく。そういう活用について無限の可能性をChromebook は秘めている。Chromebook

の活用により創造性を先生方が仕掛けていくことが、今後、学校現場で求められていくと感じた。与えっぱなしであると振り返りもできないし、そのまま易きに流れてしまうような部分もあると感じた。

(市長)

私も Chromebook を体験して、いくつかいろいろ感じたところがあった。先程から皆さんが御指摘されているように、基礎的なものをしっかり学ぶという意味では、非常に便利だと思った。

学校はそれぞれの地域で独自性があり、その地域の特性を生かした教育が行われている。一方で、自分の地域の特性はわかるが、他の地域の特性についてはわからないということは結構ある。先程のスライド説明の動画にあった大岡中の生徒と戸田小中一貫学校の生徒たちの交流の様子は、お互いの学校が 30km も距離が離れていて驚いたが、Chromebook を利用して他の学校との連携に活用できるという点において、とても興味深かった。

大岡には大岡地域の歴史や伝統、文化があり、戸田には戸田の歴史や伝統、文化がある。それぞれの地域で、独自の地域文化の中で育った子供たちが、Chromebook を使って交流でき、移動時間の必要もなく、同じ時間にお互いに交流を重ねて共有し、成長することができる。Chromebook をツールとして、今までなかったことに活用できることは、活用の仕方によっては様々なことができると思った。

Chromebook の活用方法としては、例えば、勉強をしているときにわからなくなって調べようというときに、昔だったら教科書や他の教材などを引っ張り出してきて調べたりしたが、今は Chromebook を使ってインターネットを使って調べられ、指を画面上で動かすだけで、ほとんどのことを調べることができる。効率的であるし、時間のロスも少ない。このようなことをしっかりと身につけた子供や意識の高い子供がいる一方で、上手く活用できていない子供もいて、差が出てきてしまう。小学校の段階で、かなりの差が出てきてしまうと思う。先程から皆さんがおっしゃっているように、その差をどうやって解消していくかが、すごく大事だと感想として持った。

それでは、皆様から感想をいただいたところであるが、改めて「リアルとデジタル組み合わせた学習機会の確保や居場所づくり」について、全体を通して御意見、御感想をお願いします。

(委員)

ICT 機器はあくまで道具であり、おそらく子供たちは一生使っていく可能性があると思うので、子供のうちから慣れ親しんで使っていくのは悪いことではない。インターネットが盛んだった時代にインターネットの怖さは囁かれていて、書いたものがすぐに全世界に触れてしまう。それは、そういうことになっていなかった世代だから起きたことなのかと思う。

今の子供たちはインターネットで書き込んだことが、全世界の誰の目にも触れるリスクがあるということを、当たり前のように知っているのではないかと思う。我々が仲間内だけに言ったことだから外に漏れないというのは、アナログ世代の考え方で、実は

デジタルの人たちは、今やっていること、今書いたこと、今ネットにあげたことが、全世界に広がってしまうということを、当たり前のこととして捉えているのではないかと思った。だから、我々の考え方とデジタルやインターネットに普通に触れている子供たちとは感覚が違うのではと思っている。

ICT 機器を利用できるように、活用できるようにしておかないと、それを使える人と使えない人で、大きく差が出てしまう。それが便利だから皆が使っているが、一方で、なぜ画面にタッチしたらコンピュータが反応するのか、なぜか、といろいろ疑問に思った上で、そのようなことすらも理解できるようになってもらいたいと思っている。当たり前にあるものが当たり前じゃなくて、なぜこうなっているのかと疑問に思ってくるとよい。得たものはあるが、それが取り上げられたら何もできない人では困る。

以前、頼重市長が対談をされた戸田出身のクリエイターの佐藤雅彦さんが、幼少期にいろんな流木とかで遊んで組み立てていくうちに、創造的な能力が身についたのではないかとおっしゃっていたのを記憶している。便利の中に埋もれるのではなく、不便の中から工夫していろいろ生み出せる能力が、人間にとっては必要だと思う。ICT 機器を使いこなせると同時に、不便の中からいろいろ工夫して、新しいものを生み出せる能力を子供が身につけ、そういったところを育てていけるような教育ができればよいと思う。

#### (委員)

Chromebook を毎日、自分たちで使いこなしている子供たちが、将来大人になって仕事などで使うようになったとき、すごく楽しみだと思った。特に沼津は、早くから ICT 機器の導入を進め、今、スライド説明であったように、学校現場の様々な場面で活用されている。

不登校の話に戻らせていただくが、中学校には相談室があるが、小学校では相談室が設置されていない。では、小学生が相談室に自分でかけこむかということ、それは少し難しいと思う。特に、小学生においては、学校と御家庭との連携を上手にさせていただくことが重要である。ニュースでやっていたが、静岡県内の不登校の小中学生の人数が1万人を超えた。不登校の児童生徒の数は年々増えている。沼津の不登校児童生徒数は、県内の平均値より低い、これからの沼津には不登校の生徒がいないというくらい、学校が楽しくて、学校に行きたいという気持ちが出るような教育を推進していただきたい。

#### (委員)

先月、浮島校区へ学校訪問に行かせていただき授業を見たが、そのときに感じたことが、今はあまり Chromebook を使っていないということだった。以前は、ものすごく使っているという印象だったが、おそらくこの3年間の中で、最初は先生方も慣れるのに一生懸命使っていたが、Chromebook の使用がだんだん当たり前のものになってきた。当たり前のものになっているからこそ、必要な場面で適切に使うという状況になっているのではないか。

思い返してみると、うちの子供たちの宿題などを見ている、先程出てきたように、ノートに漢字書き取りをやっていたりとか、図工の話とかもよくしていて、先日もダン

ボールを使って何かを作るなどそんな話をしていた。つまり、デジタルとアナログが上手く融合して、バランスがよくなってきているのではないか。そのことに、先生方も気づいてきているのではないか。そのため、方向性は全く間違っていないと個人的に思っているのです、その方向で進めていただければと思う。

#### (委員)

委員がおっしゃった不登校のニュースを私も見た。初めて県内の不登校の児童生徒数が 1 万人を超えたというニュースだった。不登校を考えるときに真っ先に考えるのは、いじめが原因と思いがちであるが、原因は様々である。私が知っている不登校の児童は、いじめが原因ではなく、きっかけはコロナだった。コロナで学校に行けなくなったことで自宅での学習になり、そこから学校へ行っても仲間に入りづらくなったとのことだった。

学校に行けない、行っても教室に入れない児童生徒への対応は、一つ一つ根を探っていけないと対応ができない。不登校の要因が様々であるため、学校での居場所づくりもそれに対応しながら、模索していかなくてはいけない。

先程の映像の中で、個別最適な学びというのがあったが、私は「個別対応」と捉えた。児童生徒の体力、能力、知能というのはそれぞれ違いがあり、気持ちもそれぞれ違うため、到達点、達成感を味わう箇所も、それぞれ違うと思うので、個別最適な学びがこれからますます必要になってくる。

協働的な学びについて、ICT 機器によって協働的な学びができていることは、先程の映像でもわかった。委員もおっしゃっていたが、対面というのは空気感というものがある。対面というのは、我慢するとか、思いやりを持つとか、人の意見を聞く、自分の意見を相手に理解してもらえるように、どのように話をしていったらいいかを考えるなど、様々な能力が必要だと思う。

他の委員もおっしゃっていたが、学校は学問を学ぶだけでなく、対人関係やコミュニケーションを取ることも重要であり、それがなければ大人になって社会生活をやっていけないと思うので、良いところは活用させてもらい、対面でなくてはいけないようなところ、例えば通級であるとか、ことばの教室のような、対面の場面も充実させて対応していかななくてはいけないと思った。

#### (教育長)

ChatGPT などの生成 AI が、どんどん進化をしている。1 年前と今とでは全然違うものになってきていて、デジタル社会というのは AI 抜きには語れない。教育現場にも関わってくることは当然予測されることである。

それを知った上で、子供たちに必要な力として何が挙げられるかといったときに、先程、探究の話が出てきた。探究活動を行う中では、創造力やコミュニケーション力、それから AI を含めた情報リテラシー能力が求められる。さらに、委員がボーイスカウトの活動を通して語っていた、体験などの非認知能力的なものや数字では表せられないもの、幼児期からの遊びなどを通して体験することや我慢すること、仲間と一緒に乗り越えたり、思いやる心や、何か解決していこうといった前に進んでいこうという気持ち

が、これからの時代に必要になってくる。デジタル社会の中にも、このような力がさらに必要になると思っている。

そのため、リアルな部分においては、やはり体験活動が少なくなる中で、授業の中での探究学習が大切になる。なぜそうなるのか調べてみて、探究していく力を育てるためのツールとして、このような ICT 機器を活用する。小さい頃から ICT 機器の便利さというものを知る一方で、情報リテラシーについても併せて指導していかなければいけない。

人の痛みや温かさ、辛さは、なかなか画面を通して伝わってこない。先程の委員の裁判の話もそうであるが、実際その場でしか伝わらないリアルな部分というものを不易の部分とし、新たな学びのスタイルの中にも教員が不易の部分をしっかり持つことが、これからの授業でも求められていくと思う。

不登校の児童生徒について、先程から話題に挙がっているように、いじめも原因の一つであるが、他に精神的なもの、不安や無気力、何もやる気にならない、だから学校にも行きたくない、勉強もしたくないという児童生徒が増加している。なぜ、そのような精神的な不安や無気力が不登校の原因として多くなったのか、様々な要因があると考えられる。

我々としては、誰一人取り残さない教育として、学校での児童生徒の居場所づくりを保障していくことが課せられた使命だと思う。学校ではなかなか自分の居場所が作れない、そのような児童が大人になって成長していくことを考えると、我々としてもフリースペースのような場所が、小学校でも中学校でも必要になってくる。自分が安心できる、ここにいると心がホッとするという場所が、学校の中や学校以外にもあることは大事である。そのような安心できる場所の中で、デジタルツールを活用して遠隔授業に参加するなど、必然的に求められてくると思う。

先程のニュースで話題にあがったように、静岡県の不登校の児童生徒が1万人を超え、沼津市の不登校の児童生徒の数も右肩上がりが増えていく。様々な子供たちがいる中で、学校の中に自分の居場所があることや、授業の遅れを取り返せるような環境を、大人がつくっていかなくてはいけない。直接、人と関わるのが辛いような状況の中では、Chromebook を使って学習を支援することは非常に有効であると思っている。

(市長)

デジタル社会に関しては、今以上に生成 AI や ICT 機器などを使った様々な最新技術やこれらの技術を活用した社会が今後、ますます発展していく。我々市役所の行政サービスも、今デジタル化ということいろいろ進めているが、行政サービスを提供する側と受ける側で非常に微妙なバランスになっている。市民の皆様方、事業者の皆様方の方がデジタル化が進んでおり、行政側がその足を引っ張るようなことをしてはいけないと、急ピッチで進めている。このようなデジタル社会に、子供たちは将来飛び込んでいくことを考えると、今のうちから ICT 機器のしっかりとした活用や、デジタル環境を整備することは必須である。

一方で、皆さんの御意見の中にもあったように、体験することや人と相対して様々なことを行うことは、リアルな社会では当然のことである。このことを軽視してはいけない

いと私は強く思っている。知識だけを入れてそれを頭の中に入れるということであるならば、USBメモリーと同じである。しかし、人間はUSBではない。やはり体験や様々な経験により、その精神や心を育てていくことは極めて重要だと思う。

現代の社会において、心の問題が非常にクローズアップされている。不登校になってしまったり、対人関係がなかなか上手くいかないこともある。リアルな部分は体験を通して、心を強くしていくことも非常に重要であるので、このデジタルとリアルを上手く組み合わせることが、今一番求められていると捉えている。

ただ、今はリアルとデジタルは別物と捉え、デジタルは何か特別なもののような感じになっているが、実はデジタルもリアルな時代になってきている。すでに、過渡期にある現在において、そういう社会が近い将来あることを、我々は念頭におかなければならない。子供たちのために、よりよい環境をつくるということの重要性を我々がしっかりと認識しながら、これからも取り組んでいかなければいけないと感じた。

皆様からは本当に貴重な御意見を賜り、感謝申し上げます。

## 5 協議事項 2

### 沼津市教育大綱について

(市長)

本日の議題の二つ目、「沼津市教育大綱について」意見交換を行いたい。  
意見交換を行う前に、事務局から説明をお願いする。

(事務局)

現行の教育大綱が令和7年度で終期をむかえる。令和8年度を始期とする次期教育大綱の策定に向け、現行の教育大綱に基づいた教育基本構想の各事業の振り返りと、現在の教育を取巻く日本の社会状況について説明した。

(市長)

教育大綱に基づき進めてきた事業の振り返りや、教育を取り巻く状況について説明があった。これについて、御意見や御感想をお願いしたい。

(委員)

今の教育大綱の内容について、私は非常に首肯できるところがある。社会や自分のふるさとに対する愛着、なおかつ、今後生きていくための強い心や、健やかな体の育成が示されている。人間の自己肯定感というのは、社会や自分のふるさとに対する愛着というのも必要だと思うので、それを育む上でも地域総がかりで子供を育てていくという社会あり方は、非常に重要だと思う。

それを踏まえて、今までに実際行われた各事業等に関しては、非常に頑張っていたっていると、私自身は思っている。特に、言語化教育による「わたしの主張大会」は、私はできる限り拝聴しているが、中学生でありながら、よく考えられているなど思っている。このような子供たちがいると、非常に安心というとおかしいが、私自身も目から

鱗が落ちるような経験をさせていただいており、非常に良いと思う。

食育に関する取り組みについて、給食においても沼津の食材を活用していただいている。個人的には、もう少しお茶をたくさん出すようにして、御飯に牛乳はどうなのかと思っている。

私は東京から来ているので、沼津の良さというのがわかるが、生まれてから沼津にいる方は、沼津の良さあまり気づかない。そういったところを子供たちにもわかってもらいたいと思うが、人から評価されないと、当たり前のようにあることに感じて何も感謝しない。いずれは沼津の良さを子供もわかってくれると思う。

地域総がかりの教育に関しては、やはり少子高齢化が進み、子ども会の子供も少なくなり、登校時の旗振りの当番が非常に大変だということも聞く。今の状態をいつまで維持できるのか、時々不安を覚えることがある。

(委員)

現在の教育大綱にある「誇り高い沼津を創造する 貴き志を持つ人づくり」を目的として、基本方針として「人間力を磨く教育」と、「地域総がかりで取り組む教育」は、今後も強く掲げていっていただきたいと思う。

急速に少子化が進んでおり、複式学級になってしまった小学校も出現してしまった。本市に限らず全国的に少子化が進んでいる。小中学校の統廃合は、各地でも行われている。沼津の子供たちには、できるだけ適正規模の学びの場を提供してあげたい。

また、先行き不安定な世界情勢や地震災害大国と言われる我が国の未来を担う子供たちには、困難な時代をたくましく生きてほしい。それには、この教育大綱に掲げている「人間力を磨く教育」というのは、とても大事なことだと思う。確かな知性、豊かな心、健やかな体を育てることは、特に強く協調していただきたいと思う。

「地域総がかりで取り組む教育」においては、先程も少子化の話が出たが、地域総がかりで関わってくださる人材の確保にも、これから苦慮していくと思う。沼津にもその地域にしかない素晴らしい伝統というものが各地域にあるので、子供たちにはそれらに誇りを持って引き継いでもらいたいと思う。現行の教育大綱を大きく変えていくのではなく、ますますこれを深く追求してほしいと思う。

(委員)

今回この機会に改めて教育大綱を読み返し、また、皆さんのお話を伺った中での感想であるが、教育大綱の始期である令和3年度は、先程の ICT 機器の活用 of 発表の中にもあったが、N-GIGA や Chromebook が導入されたタイミングでもあった。

その中で、教育大綱の中の「人間力を磨く教育」の「(1) 確かな知性の育成」の中に、「変化の激しい予測困難な時代を乗り越え、新たな価値を創造していくために必要となる確かな知性を育んでいきます」という内容があり、これも本当にタイムリーな取組だったと感じた。

「人間力を磨く教育」の中の「(3) 健やかな体の育成」や、「地域総がかりの取り組み」の中に、スポーツのまちが取り上げられており、それに関しても、先程スライドの中にもあったが、総合体育館の香陵アリーナが新設されたことにより、その土壌が整ったと

という印象を受けた。

また、「地域総がかりで取り組む教育」については、全中学校区にコミュニティ・スクールが設置され、各地域で様々な取り組みがされていると思うが、私は地元が愛鷹であるが、例えば、コミュニティ祭りにも地域の子供たちがたくさん参加をしている。祭りの中に子供たちが遊びに来てるのではなく、スタッフとして活躍しているのが、もう当たり前になってきている。先程のスライド発表の中では、学校に地域の方が来るという事例があったと思うが、子供たちが地域に出ていくということが当たり前のことになってきていることが、印象としてすごくある。

一方で、教育大綱をもとに具体化されている様々な事業について、私は、この事業が教育大綱に基づいて具現化されているというのがわかるが、市民の皆さんはどうかというところがあり、教育大綱の認知度や浸透度について、まだ改善の余地があるのではないかと感じた。

#### (委員)

教育基本構想実施計画などの資料を何回か頂戴し、教育委員会の会議でも関連したお話を伺っている。二十歳の議会や市民大学などに参加させていただいているが、これらの事業は生涯学習課の担当で、教育の一環だなというのは思っていたが、フェンシングは私からその気持ちが外れており、委員がおっしゃるように、知ってはいるが、それがこの教育大綱の中に織り込まれていることだったということがわからずにおり、本当に恥ずかしい限りである。

そのため、様々なことがこの教育大綱に基づいて展開されて来たことを改めて思った。と同時に、委員もおっしゃるように、そうとはわからずに知らないでいる方も、私と同様に多いのではないかと思った。

あと、地域総がかりというところでは、コミュニティ・スクールや部活動の地域移行など、地域の方々の力を借りるもの、また地域の祭り等に中学生も協力をするなど、部活動は別にしても、以前から大なり小なりやってきたことではあると思う。私の主人は柔道をやっていたが、息子が中学生だったとき、息子は柔道部ではなかったが、請われて柔道のコーチに行っていたことがあった。地域総がかりという認識はしていなかったかもしれないが、そういうことは各地域で以前から行われていたと思う。これらが教育大綱に基づいていたということを知らなかったことは一番の反省である。

#### (教育長)

市長のお話にもあったように、昨年、沼津市制 100 周年を迎えた。私も皆さんと一緒に 100 周年を祝うことができ、本当に幸せだと感じた。この時期に、過去の 100 年を振り返るととても良いチャンスということで、様々なイベントや行事を、沼津市を挙げて行った。

その中で、子供たちにも沼津の良さや、沼津に住んでいるとなかなか見えないものが、少しずつ意識されてきたように感じた。沼津に対する愛着や郷土愛、沼津ってすごいという誇り、こういうものが子供たちにも育まれてきた 1 年であった。今年はお昼のチャイムの後に、沼津市歌が流れている。市役所の電話の待ち受けの音楽にも沼津市歌が流

れ、8時25分にも沼津市歌が毎日庁舎に流れている。市役所を挙げて、沼津市歌を浸透させながら、沼津に対する郷土愛が浸透してきている。

問題は、市長もよくおっしゃるように、101年目の今年をどうつなげて、次の一步にしていくのか。これまでを振り返ると、現行の教育大綱が出来上がった頃は、ちょうどコロナ禍であった。予測することが難しい時代といわれる中で、5年後を見据えた教育大綱のこの理念というのは、私は素晴らしい理念だと思っている。貴き志とは究極的な理念であり、素晴らしいと思う。

そのような中、9年間のスパンで小学校から中学校までの小中一貫的な教育で、子供たちを育てていこうという方針の下、教育活動に取り組んできた。そして、それをベースにして、さらに地域と共にある学校づくりとして、中学校区をベースとしたコミュニティ・スクールを広げていった。これは他の市町でも、各小学校や各中学校で別々のコミュニティ・スクールはあるが、中学校区が一つというコミュニティ・スクールを展開している例はあまりないので、沼津市のこのような取り組みはすごいと絶賛される。

ただ、これからの時代、私は先程、非認知能力を育むことの大切さということを伝えたが、それには幼児期からの小学校と幼稚園、保育園、こども園との連携、つながりがこれからとても大事になってくる。これについて、現行の教育大綱の5年間の期間の中で、スタートを切れたように思う。さらに今後、これらの事業を充実されることにより、ますます沼津の教育は継続的に発展できる、そのような感想をこの5年間で持った。

(市長)

地域総がかりで取り組む教育については、皆さんのお話にもあったように、地域の方々が教育大綱の基本理念をしっかりと認識しているのかどうか、そこが重要な課題だと思う。一緒に取り組んでいく相手やパートナーが、同じように理解できていないのでは、大きな違いが発生する可能性がある。今後はそれぞれの事業内容についてPRをしていきたい。

先程来の説明の中でもあったが、現行の教育大綱が来年度に終期を迎え、令和8年度から新たな教育大綱を策定していく。次期教育大綱の策定に向けて、委員の皆様にも発言で触れられた方々もいらっしゃったが、改めて皆様方から御意見等をお伺いしたい。

(委員)

先程、教育大綱に掲げられている理念が、各事業で具現化されているお話を伺った。いろんな事業の準備が整い始まったという印象は受けるが、十分取り組んでいて成果をどんどん上げているという評価には、まだ少し早いように思う。

様々な事業の取り組みをされていると思うが、より質が高く、効果的な取り組みになるように継続していけると良いと思う。教育大綱には、周知という部分の課題もまだまだあると思うので、継続していった方がよいと思った。

(委員)

教育大綱の基本的なところはとても重要なことなので、変えなくてもよいのではな

いかと思う。ただ、刻々と状況が変わっていく社会の中で、具体的な事業というのはそれに応じて変えなくてはいけないと思う。

それから、教育というのはやはり人をつくる、人格形成に関わることで、これに携わる周囲というのも、やはりとても大切である。一つ目の議題で取り上げた ICT 機器も使いながら、リアルなところも大切にしていき、そのような社会に携わる人材の育成は、とても重要になってくる。多様な児童生徒、あるいは多様な人たちと接するのであれば、それに関する専門的な知識も必要になってくる。接する側の学びを保障するということも、とても重要なことである。

(委員)

先程も話したとおり、現行の教育大綱は素晴らしいと思っている。これを大きく変えていくのではなく、さらに深めていっていただきたい。一方でさらに、変化の激しい現代社会において、この先5年後がどうなっているのか、私たちにも想像がつかない。このあたりを考慮して、寛容性のある具体的な内容をもう少しつけてもいいのではないか。教育大綱の基本的な方針は、素晴らしいと思っている。

(委員)

私は、教育における理想として、確固たる自我を持ち、どんなに社会が変化していこうと、たくましく生きていける、そのような人間になってほしい、そういう人材を育てるのが目標だと思うので、教育大綱の基本的な価値観というのは、5年や10年で簡単に変わるものではないと思っている。根本的な価値観を持つものに関しては、変える必要はないのではないか。

ただ、もしあるとすれば、郷土愛、家族愛、お互いに支え合うという社会に対する関わり方を、お互いの思いやりといった変わらない価値観、社会が変わっても、変わらないもの、守り続けていけるような人という要素も、教育大綱にはあってもいいのではないか。

教育大綱の「目的・趣旨」の「シビックプライドを持ち、主体的に社会を変えていこうと行動する人」は、必ずしも変えていこうとしなくてもよいと思っており、社会にとって大事なものをしっかりと保持し、そういう社会に関わっていく。社会を支えている人とか、そういう形の方が、そういう趣旨もあってもいいと思っている。「主体的に社会を変えていこう」というのは、主体的に社会に関わっていくという趣旨だと思うが、変わらない、変えてはいけないものもあるという視点もあってもよいと思った。

(教育長)

次期教育大綱について様々なことを踏まえると、今後の5年間というのは、これまでの5年間を発展充実させていくことをメインにしていくと考える。ただし、時代の変化のスピードが非常に激しいため、カバーしきれなかったものについて、触れていかななくてはいけない。例えば、中学校の部活動の地域移行について、現時点では、休日は令和10年度に、平日の部活動は令和13年度に地域移行ということで、年次的には次の教育大綱と被る部分がかかり出てくる。

また、今年も10月の平均気温が平年の10月と比べると2.2度も高かった。統計開始以降で最も気温の高い10月であった。富士山の初冠雪も11月7日だったが、130年間で一番遅いということで、本当に地球が温暖化していることを、まざまざと見せつけられている状況であった。「富士山に雪くれば台風来ず」という言葉があるが、台風が来なくなる頃に富士山に雪が積もるという意味で、案の定、10月の終わりに台風21号、11月に入り、22号、23号、24号、25号と立て続けに発生した。非常に大きな勢力を伴う台風が、今年も国内外問わず上陸したり接近したりして、多くの被害をもたらされた。それから、線状降水帯のような目を疑うようなゲリラ豪雨を頻りに目にした。

このような環境の中で、防災に対することは命に一番関わることであり、これは学校教育だけではなく、市民の命を守るという意味でも、今後、強調していく必要があると思う。それと同時に、なぜこのような地球温暖化になってしまったのか、改めて環境教育を意識する必要がある。沼津市だけが一生懸命、環境教育に取り組み、沼津市の状況だけが良くなれば解決、改善につながるという話ではない。志を持ち、環境に関する取組も大事にしていくべきである。その点を、次期教育大綱に網羅されるとよいと思った。

(市長)

100周年の話が出たが、100周年にあたってのコンセプトを皆さんは覚えていらっしゃるか。4つあったが、「先人たちへの感謝と敬意」、「誇りと愛着」、「市民との協働」、そして、「次の100年への新たな一歩」である。ここに、詰まっていると感じた。

今日の沼津市がここまで発展したのは、先人たちが一生懸命頑張ってきたということと合わせて、沼津が持つ環境ポテンシャルがある。こういうものに対して、感謝の気持ちを持って、次の100年に向けて歩いていくことは非常に重要である。

委員の話にも出たが、沼津の人が沼津の良さをよく認識できていない、沼津にすごいところがあるということ、他の地域から来られた方に教えてもらって初めて気がつく場合がある。様々な取組の中においても、これだけポテンシャルが高いのに、なぜ活用しないのかということ、他の地域から来られた方々に言われる。自分たちはそれが当たり前だから、すごいものだという認識がない。これは本当にもったいない話だと思い、昨年の100周年のときには、「ぬまづの宝100選」ということで、市民の皆様方に沼津の良さを再度認識していただく目的で、一年間かけて何度も様々な取組を行った。そのため、ある程度市民の皆様方にそういう認識が定着しつつあるように思う。

そういうものを大切にしながら、取り組んでいくことが大変重要であり、先程来、お話の中にあるように、劇的に物事が変化していく時代である。前の教育大綱のときには、デジタル化やコロナ禍の状況など、そういう特異な状況が想定されていなかった。先程、教育長がお話されたように、防災教育、教育の中における防災の大切さなど、子供たちの命を守る大切さなど、そういう観点などいろいろな含めなくてはいけないと感じた。

委員の皆様方も教育長もおっしゃるように、現行の教育大綱の基本的な部分においては、優れた素晴らしいものであるという認識をいただいた。また、委員がおっしゃるように、成果がいろいろ出始めてきているが、完成していないという印象がある。現行の教育大綱の基本方針である「人間力を磨く教育」と「地域総がかりで取り組む教育」を掲げつつ、時代の潮流をしっかりと見据えた形で、次期大綱を策定していければよい

うように思っている。

皆様方の貴重な御意見を聞かせていただき、本日は開催して良かったと改めて心から感謝を申し上げます。

以上で、予定していた会議日程を全て終了した。時代の先を見通すことは難しく、誰にもわからない。そのような中で、まちやまちづくりを支える人づくりは、極めて重要になってくる。私は、未来を担う沼津の人材をしっかりと育てていくことは、本当に大変重要なことであると考えている。

昨年度の総合教育会議の中でも確認されたことであるが、次期教育大綱においても、本市の発展に繋がるよう、教育委員会の皆様と連携を密にし、「貴き志を持つ人づくり」を基本的な方針として取り組んでいきたい。本日は、大変お忙しい中にもかかわらず御出席いただき、それぞれの御立場から体験等を踏まえ貴重な御意見を寄せていただいたことに、改めて心から感謝申し上げます。

## 6 閉会